



野生植物研究所だより



● 元気の森 ぶちコンサート ●

【 穂波の郷クリニックでぶちコンサート 】

古川市米倉にある穂波の郷クリニックの“元気の森”と名付けられた庭で、10月20日の午後5時からぶちコンサートが開かれました。50名を越す人々が“元気の森”に集いアメリカからお招きした(「病院の庭」について研究されている)3名のお客様と共に素晴らしい音楽を楽しみました。



3名のお客様とは・・・地域の社会資源や自然をいかしながら患者を支援するコミュニティケアを考えていらっしゃる、アム・ハーストがん協会会長のフランシス・バトラーさん。ホスピタル・アート運動で医療における環境の資質向上を目指し先駆的なガーデニングプロジェクトを展開している、アーツ・イン・ヘルスケア学会理事のリン・ケイブルさん。医療の現場での庭は人々の感情を解き放ち、癒すものであると考えそのデザインを追求しているスイート・ブレアー大学園芸管理者でありガーデンデザイナーでもあるドナ・ミークスさん。

コンサートが始まる前にその3名のお客様を案内して“元気の森”を見てまわりました。3人とも庭に植えてある樹木の種類や配置などに大変関心を持たれたようでした。その後 サックス奏者と声楽家による「ふるさとの秋シリーズ」と題してぶちコンサートが始まりました。声楽家は、現在NPOファミスタッフの原宏幸さん。サックス奏者は、現在東北各地でサックスの指導をしている金子ひとみさんです。元気の森の芝生に立つ二人はライトアップされ、その後ろには庭の樹木やはせがけされた古代米、カカシも立っています。それらが秋の夜の優雅な雰囲気をかもしだしています。観客はガラス戸をはずした広い交流スペースからと、軒下に並べられた椅子に腰掛けて歌や演奏を聞きました。曲は「ふるさと」「里の秋」「サンタルチア」など皆がよく知っている曲なのでロズさみながら聞くことができ、すてきなコンサートでした。お二人とも古川出身の20代の若者です。今後の活躍を期待してやみません。



【 日米ガーデン交流会 】

コンサートの後、会場を交流スペースに移し日米ガーデン交流会がありました。来賓の3名の方から医療には心を癒す庭やそのような環境がいかに大切なのかということやアメリカの現状などの話がありました。“元気の森”についてもすばらしい庭であると褒めて戴き嬉しい限りでした。交流会の後は来賓の方々とともに10名ほどで食事会がありました。農家レストランでの食事会はキノコ料理や山菜料理などに舌つづみを打ちながらの楽しいものとなりました。



【 三浦院長のあいさつ 】

当日、穂波の郷クリニック院長三浦正悦先生からあいさつがありました。その一部を紹介いたします。

「今日は遠くアメリカ合衆国より3名の方々をお招きすることができ心から歓迎いたします。大崎の地に在宅緩和ケアが展開されてはや3年半になりますが、人が人を癒すということの大切さを実感してまいりました。あるときは心をこめて何時間も話をお聞きしたり、身体をさすったり、あるときは一緒に温泉に入ったり食事をしたり、またあるときは川の流れや田んぼや畑の中で一緒に過ごしたり・・・。

…略…この元気の森はたくさんの実や花のなる木があり、そこには鳥や蝶が飛んできて、ビオトープにはめだかやドジョウ・カワニナや水草が生息しております。ここには近所の子供たちが遊びにきたり来年には蛍がとびかたりするようにもなります。ここを散歩する患者さんやその家族は元気の森から生きる勇氣とエネルギーをいただきます。…略…いつでも立ち寄って頂ける憩いの場でもありますように・・・どうぞ今後とも手を取り合って歩んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。」